

「皆さんに知ってもらうために・・・。」

今回は、7月29日に行われましたCS学校運営協議会のコーディネーター部会での協議の内容を紹介します。協議にはコーディネーター部会のメンバーに加えて教育委員会から登藤教育長と稲村指導主幹にも同席いただきました。

【小中一貫教育を進めていくための共通認識】

小中一貫教育を進めていくにあたり共通認識しておきたい用語について、次にあげた「**連携教育と一貫教育の違い**」、「**幾つか形態のある小中一貫教育のタイプ（施設など）の違いによる呼称の使い分け**」の2点について改めて確認しました。

小中連携教育と小中一貫教育の違い

〔説明会資料より抜粋〕

○小中連携教育

小学校と中学校が情報交換やその他、行事や研修等で交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育

○小中一貫教育

小中連携教育のうち、小学校と中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通した教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育

中春別学校区では、中学校から小学校への授業（英語）の乗り入れ、保小中連携委員会による情報交流の促進、農協の皆様にもご協力をいただいている小中合同の春の清掃活動、小中の授業交流、保育園児交流学習など様々な交流の事業を実施しており、すでに現時点で連携教育を行っています。 ※ここ2～3年は、コロナ禍による感染防止のため実施できていない事業もあります。

また小学校と中学校で年度の重点課題を共有（学力と人間関係形成力の向上）していることや中春別学校区CSで掲げているスローガンと3つのめざす子ども像（このお便り集の表紙に掲載しています）を目指して教育活動に取り組んでいることから、**一貫教育**で求められている方向（めざす子ども像の共有）に進み始めているということができます。

小中一貫教育の形態による呼称の使い分け

〔説明会資料より抜粋〕

○小中一貫校：小中一貫教育を行うために設置された学校

小中一貫校は施設の形態により、次のように呼称しています。

- ・一つの校舎の中で小学校・中学校が学ぶタイプ ⇒ **施設一体型**
- ・同じ敷地内で別々の校舎で学ぶタイプ ⇒ **施設併設型**
- ・敷地は別ながらも一貫した教育のもとに学ぶタイプ ⇒ **施設分離型**

○義務教育学校：義務教育期間9年間で1つの学校として一貫教育を行うための学校

小中連携教育のうち、小学校と中学校がめざす子ども像を共有し、9年間を通した教育課程を編成し、系統的な教育をめざす教育

今回は、協議を進めていくにあたり共通認識しておきたい用語についてまとめたものを紹介しました。次回は、小中一貫教育の利点や不利となるような点について紹介する予定です。